

卒業生調査 結果

調査対象者

令和2年度の本学介護福祉学科の卒業生（第24期生）20名

調査期間

令和3年12月から令和4年1月

調査票回収数・回収率

回収：8名

回収率：40.0%

1. 回答者の属性

回答者8名のうち女性6名（75.0%）、男性2名（25.0%）であった。20代が8名（100.0%）、であった。

調査回答者が居住地は、秋田県の県南地域が最も多く4名（50.0%）、そして中央地域3名（37.5%）、秋田県外1名（12.5%）であった。

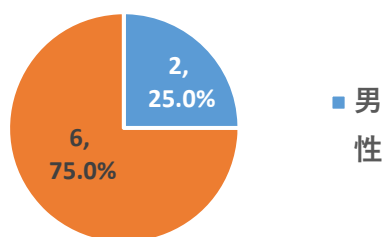


図1：性別(n=8)

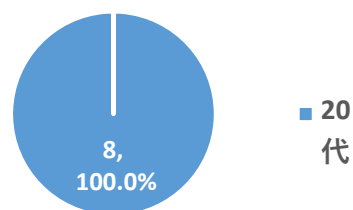


図2：年齢(n=8)

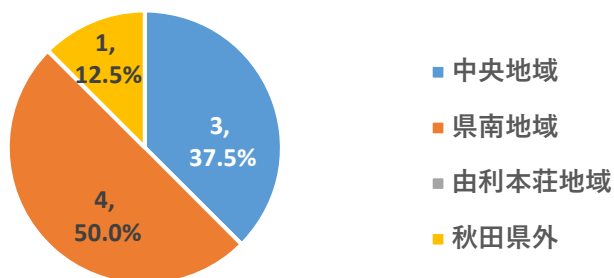


図3：居住地(n=8)

2. 卒業生の就業先・職種

回答者の全員が就業しており、種別は全員が「介護・福祉関係」、職種は全員が「ケアワーカー（介護職）」であった。就業先の運営主体は全員が「社会福祉法人」であった。

3. 在学中の教育・学生生活に関する満足度

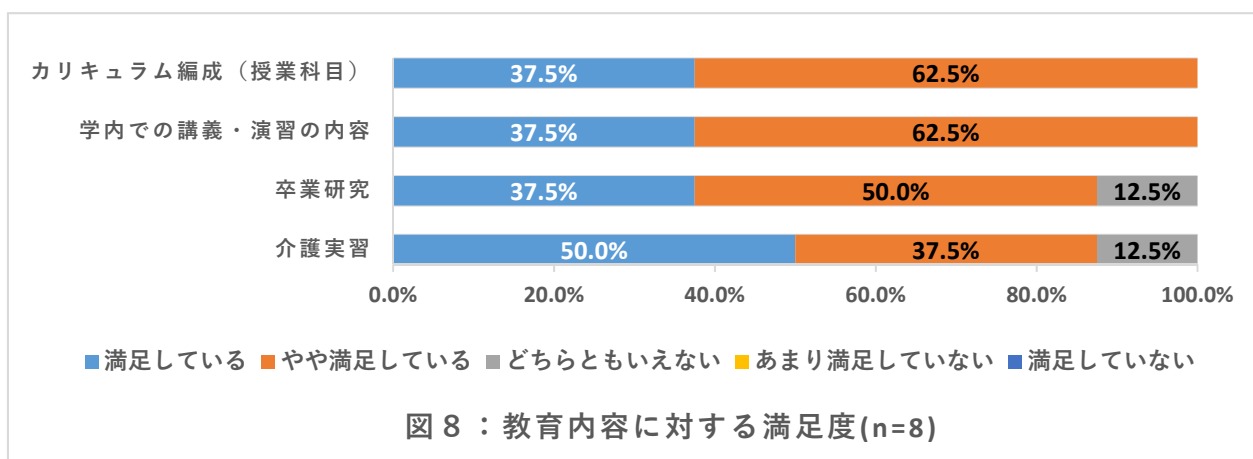
在学中の教育や学生生活について、『教育内容』、『学生生活』、『施設・設備』の区分で満足度を尋ねた。

1) 『教育内容』に関する満足度

教育内容については、「カリキュラム編成(授業科目)」、「講義・演習の内容」、「ゼミ・研究活動」、「介護実習」の4項目について満足度を尋ね、更に教育内容全体に対しての総合的満足度を尋ねた。

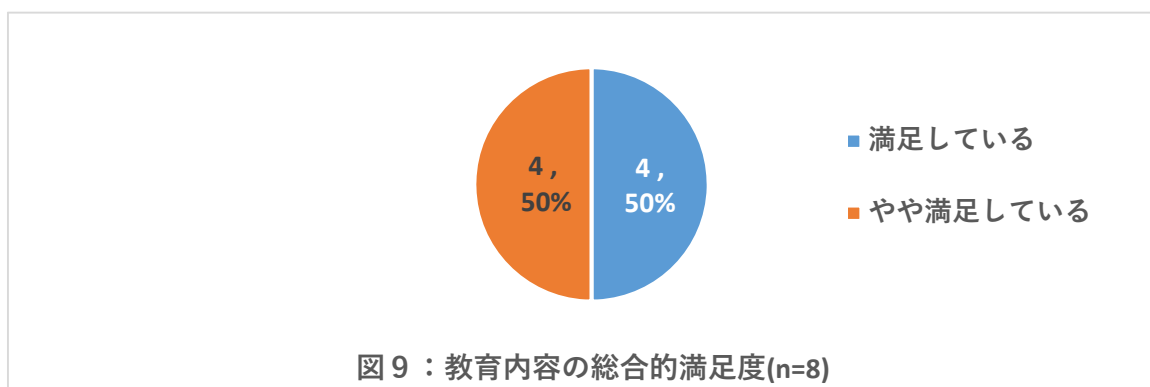
4項目中、「満足している」が最も多かったものは「介護実習」4名(50.0%)であった。次いで「カリキュラム編成(授業科目)」「学内での講義・演習」「卒業研究」各3名(37.5%)であった。

★全体的に前回より満足度が高い。



教育内容全体に対する総合的満足度は、「満足している」が4名(50.0%)、「やや満足している」が4名(50.0%)であった。

★前回と同様の比率



2) 『学生生活』に関する満足度

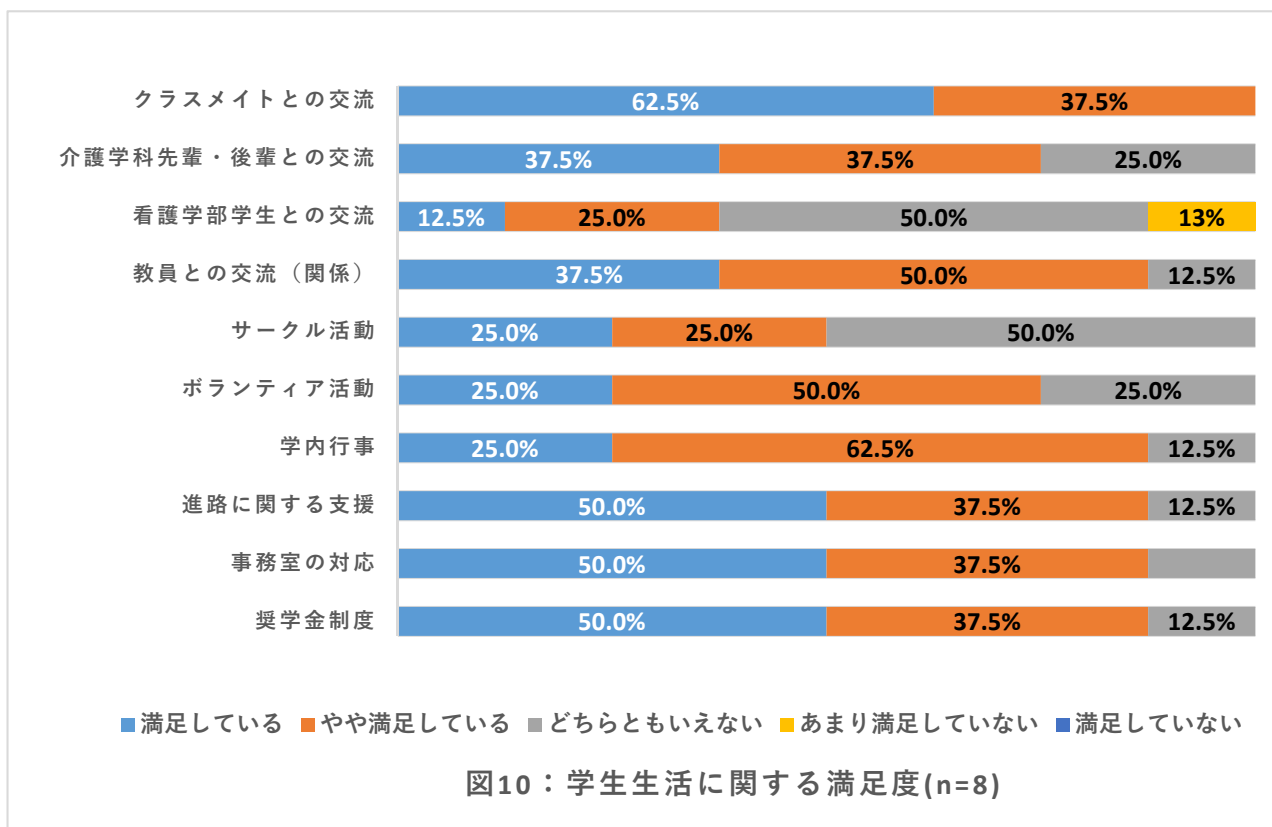
★全体的に前回よりやや満足度が高い。

ここでは10項目に対する満足度を尋ねた。

「満足している」が最も高かった項目は「クラスメイトとの交流」5名(62.5%)であった。次いで「進路に関する支援」「事務室の対応」「奨学金制度」各4名(50.0%)であった。

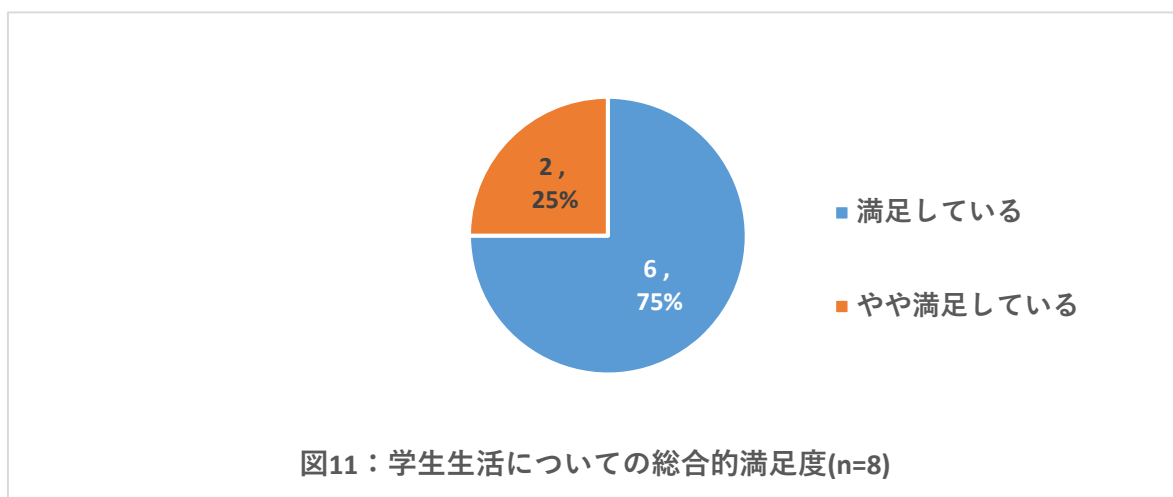
「満足している」と「やや満足している」を合わせた数値が100%になった項目は「クラスメイトとの交流」、次いで高かった項目が「進路に関する支援」「事務室の対応」「奨学金制度」「教員との交流(関係)」「学内行事」であり、いずれも87.5%であった。

満足度が低かった項目は、「看護学部学生との交流」と「サークル活動」であった。



学生生活に対する総合的満足度は、「満足している」が6名(75.0%)、「やや満足している」が2名(25.0%)であった。

★前回より満足度が高い。



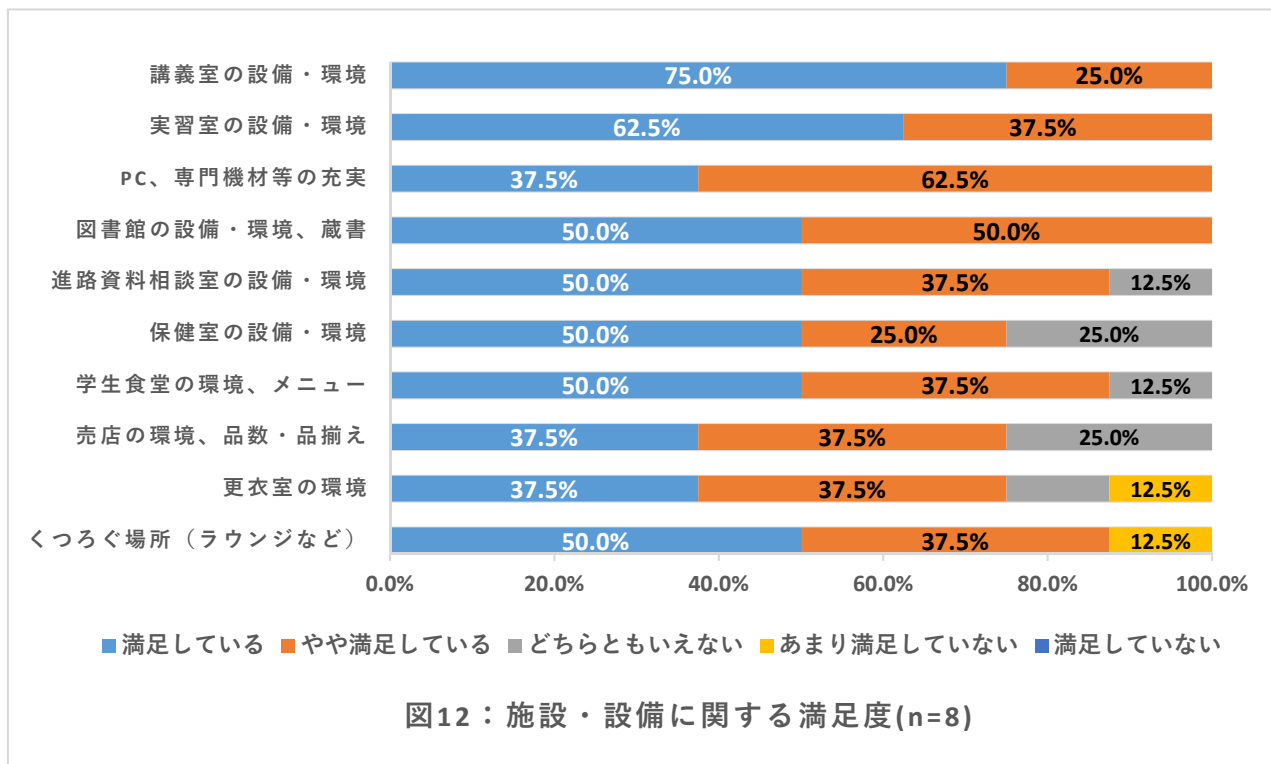
3) 『施設・設備』に関する満足度

★全体的に前回より満足度が高い

ここでは10項目に対する満足度を尋ねた。

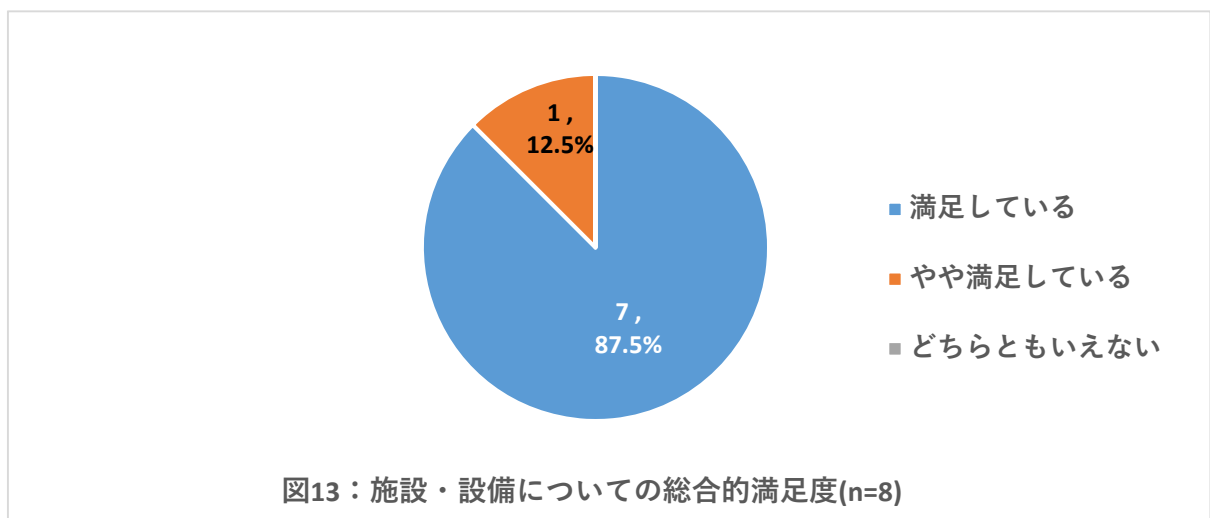
「満足している」と「やや満足している」をあわせて100%となった項目が「講義室の設備・環境」「実習室の設備・環境」「図書館の設備・環境・蔵書」「PC、専門機材等の充実」であった。次いで「進路資料相談室の設備環境」「学生食堂の環境、メニュー」「くつろぐ場所（ラウンジなど）」が各87.5%であった。

一方で、「あまり満足していない」との回答があった項目は「くつろぐ場所（ラウンジなど）」であり、12.5%であった。「満足していない」との回答はなかった。



施設・設備に関する総合的満足度は、「満足している」が7名（87.5%）、「やや満足している」が1名（12.5%）であった。

★前回より満足度が高い



★今年度から項目を見直ししたため
前回との比較なし

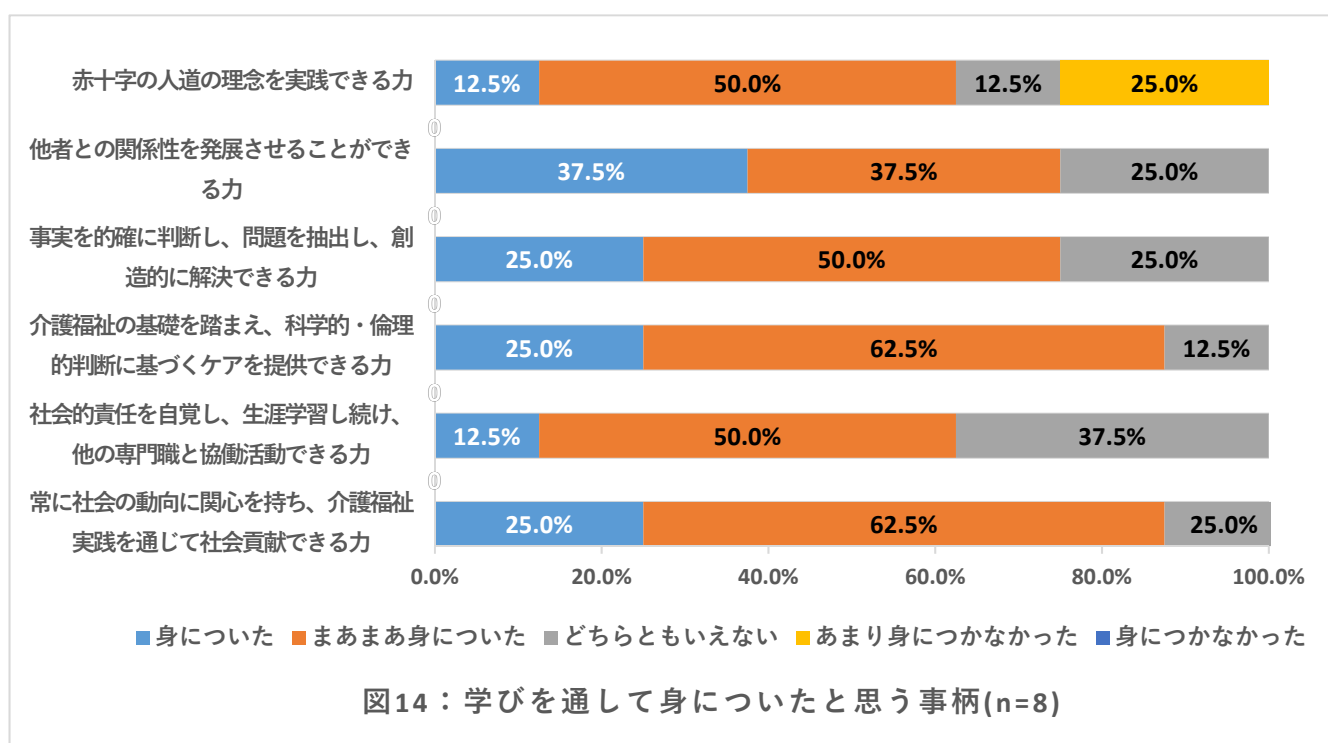
4. 本学での学びを通して身につけたこと

設定した6項目が本学の学びを通して身についたと思うか、について、「身についた」から「身につかなかった」までの5件法で回答を求めた。

「身についた」という回答が最も多かった項目が「他者との関係性を発展させることができる力」(37.5%)であった。

「身についた」と「まあまあ身についた」をあわせて100%となった項目はなく、比較的高かった項目は、「介護福祉の基礎を踏まえ、科学的・倫理的判断に基づくケアを提供できる力」と「常に社会の動向に関心を持ち、介護福祉実践を通じて社会貢献できる力」が各87.5%、次いで「他者との関係性を発展させることができる力」「事実を的確に判断し、問題を抽出し、創造的に解決できる力」が各75.0%であった。

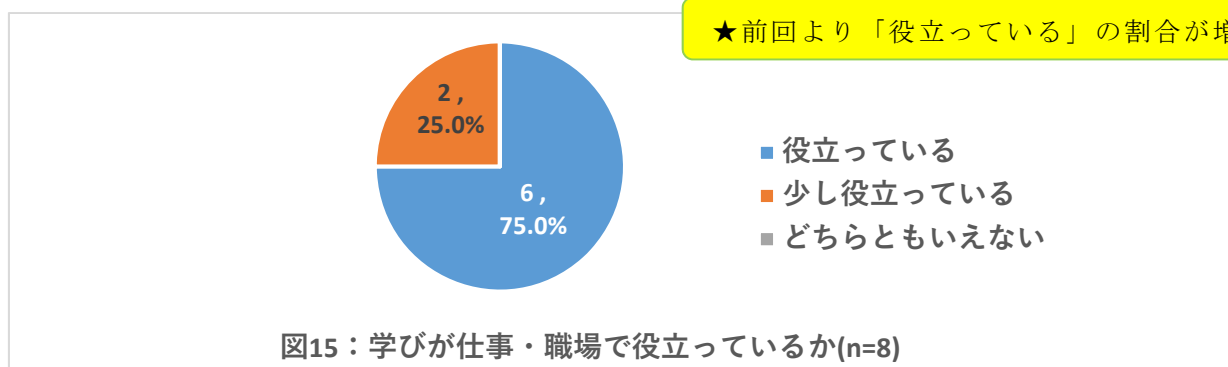
一方で「身についた」「まあまあ身についた」の合計が最も低かった項目は「赤十字の人道の理念を实践できる力」「社会的責任を自覚し、生涯学習し続け、他の専門職と協働活動できる力」が62.5%であった。特に、「赤十字の人道の理念を实践できる力」については「あまり身につかなかった」が25.0%となっていた。



5. 本学での学びが仕事（職場）で役立っているか

本学での学びが仕事・職場で役立っているかについては、「役立っている」が6名(75.0%)、「少し役に立っている」2名(25.0%)であった。

★前回より「役立っている」の割合が増



6. 在学中にもっと勉強しておけばよかった事、身につけられればよかった事

在学中にもっと勉強をしてあげれば良かったと思う科目、身につけられれば良かったと思う知識や技術について、自由記述により回答を得た。

勉強しておけば良かったと思う科目として、「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」「介護の基本」「認知症の理解」「コミュニケーション技術」が挙げられていた。

身につけられれば良かったと思う知識や技術としては、医学的な知識に関するもののほか、実践的な介護技術、チームワークや人との関わり方、マナー、感情コントロール技術などが挙げられていた。

表1. 勉強しておけば良かったと思う科目
(複数回答)

項目	出現数
こころとからだのしくみ	3
発達と老化の理解	3
介護の基本	1
認知症の理解	1
コミュニケーション技術	1

表2. 身につけられれば良かったと思う知識・技術
(複数回答)

項目	出現数
高齢者に起こりやすい疾患や障害	1
医学的な知識	1
介護技術	1
現場でも通用する実践的な介護技術	1
人との関わり方	1
多職種との連携	1
チームワーク技術	1
会社での常識的なルールやマナー	1
感情コントロール技術	1

7. 授業・実習についての改善希望点

在学中に受けた授業や実習について改善してほしいと思ったことを、自由記述で回答を求めたところ、授業の内容や方法、実習の組み立てについて下記の意見が挙げられていた。

現場の介護の実情等、現場でしかわからない事を実習以外でも授業等を通して知れる機会があれば良かった。

特に解説がなく、ほぼ毎時間教科書音読の授業。高い学費を払っているのにも関わらず、教科書音読は時間と授業料が勿体ないと思うので、改善した方が良いと感じます。

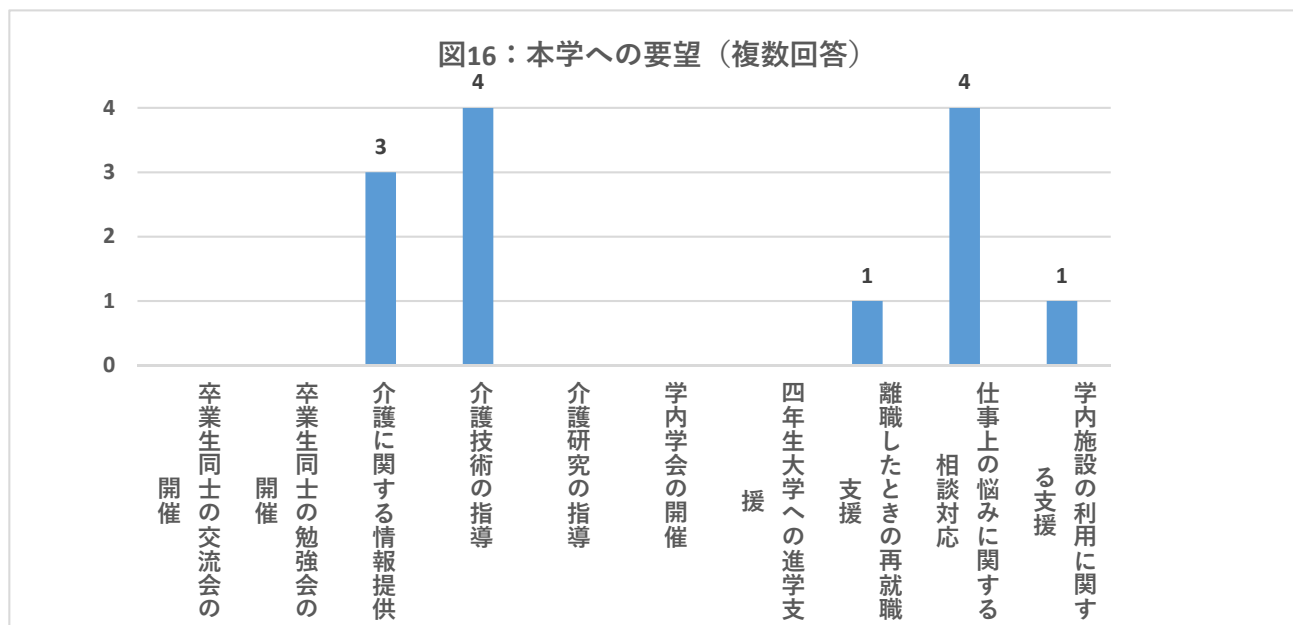
また、2年次の実習の回数について、IC、IDのどちらか、1年次の実習の時にあった方が体力的にも精神的にも楽だったのではないかと感じます。

8. 本学への要望

1) 本学から支援をしてほしいと思う事

本学から支援をしてほしいと事柄について11項目について複数回答で回答を求めた。

最も多かった項目は「介護技術の指導」「仕事上の悩みに関する相談支援」各4名(50.0%)であった。次いで「介護に関する情報提供」3名(37.5%)、「離職したときの再就職支援」「学内施設の利用に関する支援」各1名(12.5%)であった。



9. 本学への意見

本学への意見について自由記述により回答を求めたところ、1名から、本学での教育内容に関して下記の意見が挙げられていた。

在学中に授業や演習、実習を通して介護技術や知識を学ばせていただき、現場で実践することができております。また、赤十字の理念を含め、理想的な利用者への接し方についても勉強させていただき、介護職としての心構えを知ることができました。

しかし、在学中に学んだ事が実際の現場で活かしきれなかったり、通用しない事も多々あり、理想と現実の差に悩んでしまう事もしばしばありました。

理想の介護を学ぶ事は介護職にとっての基本でもあり、とても重要ですが、実際に現場で行われている介護との差に大きなものを感じる事があります。そのため、普段の授業等において基本的な介護知識・技術を学ぶと共に、実際の現場ではどのような介護が行われていて、利用者との接し方等、どのような課題を抱えているのかを深く学ぶ機会が必要であると考えます。

これは、長期実習による実習のみで補う事は難しい部分もあると思います。そこで、現場の介護とその課題点について実習以外でも学べる機会があると良いです。

また、平日頃から授業等を通して基本的な介護と現場の介護とを比較しながら学ぶ事により、少しでも実際の介護現場を知り、就職後に感じる学びと現実の差を縮める事が可能になると考えます。

最後になりますが、在学中は多くの介護に大切な事を教えてください、ありがとうございました。